

( 電子メール施行 )  
農技第 1460号  
令和5年7月14日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予察防除情報 第4号を下記のとおり発表します。シロイチモジヨトウのフェロモントラップでの誘殺数が、6月以降、  
平年より多く推移しており、幼虫の発生圃場率も高くなっています。

野菜類、花き類及び豆類圃場における発生状況に注意して、適切な防除指導をお願いします。

---

令和5年度病虫害発生予察防除情報 第4号  
「シロイチモジヨトウの防除対策について」

- 1 対象作物 野菜類・花き類・豆類
- 2 病虫害名 シロイチモジヨトウ
- 3 発生地域 県下全域

4 発生状況と今後の予想

- (1) 加西市および南あわじ市に設置しているフェロモントラップにおいて、6月以降、平年を上回る誘殺が認められている(図)。6月から7月2半旬の合計誘殺数は、加西市で104頭(過去10年平均43.5頭)、南あわじ市で272頭(過去9年平均153.3頭)と平年より多い。
- (2) 6月下旬に県南部のネギ圃場で実施した調査では、幼虫の発生圃場率は62.5%(5/8圃場)であり、昨年(33.3%)や一昨年(28.6%)と比較して広く発生が認められている。
- (3) シロイチモジヨトウは他のヨトウムシ類に比べて発生時期がやや早い。野菜類・花き類では8月に入ると、秋作の育苗や本圃への定植が本格化するため、さらに被害が拡大する恐れがある。
- (4) 大阪管区気象台の近畿地方の1カ月予報(7月13日発表)によると、気温は平年より高く推移するとされており、シロイチモジヨトウの活動に好適な条件が続くと予想される。

## 5 防除上の留意点

- (1) 加害作物は、ネギ、キャベツ、ハクサイ等の野菜類から、カーネーション、キク等の花き類、ダイズ、アズキ等の豆類と広範囲におよぶ（写真1）。
- (2) 卵は鱗毛で覆われた卵塊で産み付けられ（写真2）、<sup>ふ</sup>孵化直後の若齢幼虫は集団で加害する（写真3）。卵塊や分散する前の若齢幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。
- (3) 成虫の産卵防止対策には防虫ネット（目合4mm以下）、黄色防<sup>が</sup>蛾灯、性フェロモン剤（交信かく乱剤）の利用が有効である。
- (4) 中・老齢幼虫（写真4）には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。圃場間差はあるが、平成30（2018）年から実施している薬剤感受性検定において、ジアミド系殺虫剤を含めた一部の薬剤の殺虫効果が低い事例を認めている。使用にあたっては散布前と散布後（1～3日後）の状況を観察するなど、防除効果の確認に努める。防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

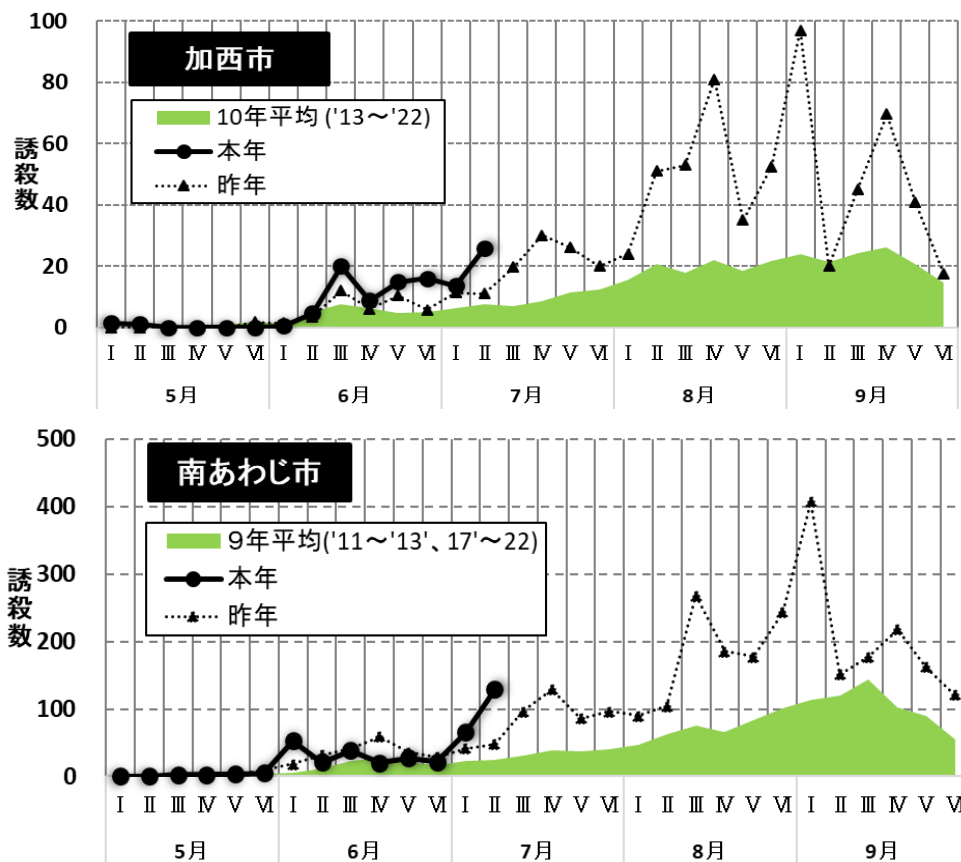


図 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ誘殺数の推移



写真1 シロイチモジヨトウによる被害（左からネギ、キャベツ、カーネーション）



写真2 シロイチモジヨトウの卵塊と孵化直後の幼虫



写真3 若齢幼虫（集団で加害）



写真4 中・老齢幼虫（体色は黄緑色～黒褐色と多様）

\*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

(<https://bojo.hyogo-nourinsuisange.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222